

令和2年度

新潟市立幼稚園・小・中学校授業改革パイロット校園事業 実践事例

総合的な学習の時間における探究の過程の質的向上

地域素材を生かしたカリキュラム・デザイン

新潟市立山の下小学校 校長 田代 孝

1 実践事例（授業者：教諭 小林 恵）

(1) 活動名

「わっしょい!!」（4年 総合的な学習の時間 全40時間）

(2) ねらい

- ・地域で夢や希望をもって活動している方々の思いや願いを知るとともに、活動を通して自分を見つめ、目指す自分を見いだすことができる。（知識・技能）
- ・地域の祭りについて調べ、整理・分析するとともに、地域や社会の状況を踏まえて学級独自の木遣りをつくり、表現することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・地域の方々の思いや願いに関心をもつとともにこれからの自分について考え、前向きに生きようとする。（学びに向かう力・人間性等）

(3) 活動の特性

4年総合「わっしょい!!」には、三つの特性がある。

一つは、太鼓や笛を演奏したり歌ったりする活動を通して、地域の方々の思いや願い、木遣りの歴史や意義を知るとともに、その方々の生き方に触れることであこがれや理想をもち、地域への愛着を深めることである。

この地域の木遣りは、1500年代末期頃、加賀方面より移住してきた者たちが定住し、伝えられたと言われている。それが春と秋に開催される山の下祭りで披露されてきた。活動の最初は、太鼓や笛を演奏したり歌ったりする活動を存分に設定する。

子どもが独特なリズムや節回し、歌詞の内容に興味をもち始めた頃に、木遣りの歴史やこの地域に受け継がれてきた背景を聞く場を設定し、地域の方々の思いに触れる。

活動の中盤では、自分たちで木遣りを演奏する場を設定し、達成感をもてるようにする。

地域の方々に演奏を教えてもらったり、話を聞いたり、一緒に演奏したりする活動を継続することにより、子どもは地域の方々の思いを知り、自分自身と重ねながら受けとめ、あこがれや理想像をもつとともに、地域への愛着を深める。

二つは、これまでの木遣りを整理・分析することを通して、自分たちで作詞し、思いを曲にして表現するとともに、年度末の二分の一成人式で自分を語ることである。

この地域は海の近くにあり、古くから漁業や海運業が盛んであった。この木遣りは、櫓や櫂を漕ぐ時や網揚げ、材木などの大きくて重い物をみんなで力を合わせて移動させる際の歌であったと言われている。

木遣りは、日々の生活の中での目標に向かって、前向きに心を一つにして課題の解決を図る歌である。現在、私たちは新型コロナウイルス感染症の影響下の中で生活している。こうした状況の下、私たちが少しでも前向きになるように独自の木遣りをつくる。その際、これまでの木遣りの歴史、時代背景、曲想、歌詞のリズム、そこに託した当時の人々の思いを調べる。

調べたことと現在の状況と比較し、独自の歌詞を考え、曲にして表現する。このことで、自分たちの思いを伝える。活動の終盤には、こうした活動を振り返り、二分の一成人式を設定する。この活動での楽しかったことや大変だったことを踏まえて、子どもは自分の成長や夢、これから大切にしたいこと等についてこれまでの体験と結び付けて語る。

三つは、他教科との関連を図り、充実した学びを展開することである。

地域の方々との出会いを通して感じたことや考えたことを短文にまとめたり、それをもとにして解説文を書いたり二分の一人式での発表原稿を書いたりする活動は、国語の「書くこと」と関連付ける。木遣りの歌詞の分析は「読むこと」と関連付ける。地域の歴史については社会科と関連付ける。木遣りの演奏については、音楽科と関連付ける。

この活動を中核として教科横断的な学びを組織する。子どもは学んでいることや学んだことを実際に使って考えたり、表現したりする。

(4) 11月25日の授業公開までの学びの姿

4年生の子どもは、これまでに次の活動を行ってきた。

① 木遣りの太鼓、笛、歌を体験する活動

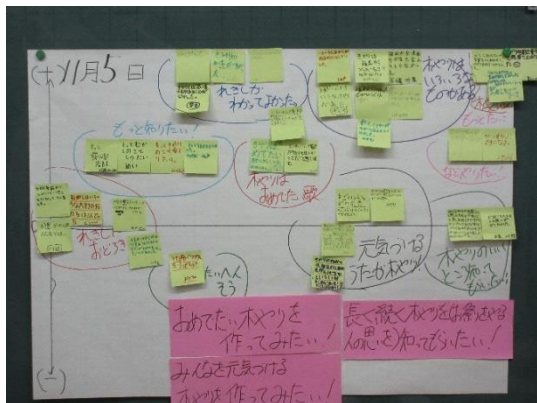
子どもは、7月末から10月にかけて地域の木遣り保存会の方々から教えていただいた。

まずは、子ども全員で太鼓の演奏を体験した。10月には笛や木遣りの歌も体験した。活動後は、その日のうちに振り返りを行った。子どもは感じたことや考えたことを付箋紙に書き、学級全体で交流した。付箋紙を使った整理・分析を通して「楽しかったこと」「もっとやってみたいこと」「調べてみたいこと」等を共有し、次の活動を見いだした。

10月末には子どもに希望をとり、太鼓、笛、歌に分けて活動を進めた。子どもは、木遣り保存会の方々から木遣りの演奏を教えていただくことを大いに楽しんだ。



② 木遣りの歴史等を聞く活動



子どもは、木遣りの演奏とその後の11月初め、木遣り保存会の方々から歴史等を聞いた。

子どもは、木遣りが日々の生活の中で400年くらい前に誕生し受け継がれてきたこと、作業する人々がつらくならないように楽しい気持ちになるような歌詞であること、歌詞は「7・7・7・5」調のリズムであることを知った。また、木遣り保存会の方々から木遣りを受け継いできた思いを語っていただいた。このことで、子どもは木遣り保存会の「人」にも興味をもち始めた。

(5) 活動内容

月	主な学習活動	留意点
	【第1期】～ひたる～	
7	◎ 木遣りを地域の人から教えてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後、感じたことや考えたこと等を付箋紙に書き、学級全体で整理・分析し、次の活動を見いだすようにする。 ・国語の「書くこと」や社会と関連付けて活動を進める。 ・木遣りの伝統、それを伝えていくことの意義を感じることができるよう、音楽と関連付けて演奏方法を本格的に教えてもらう。
8	・山の下祭りでの木遣りの演奏を聴き、感じたことを出し合う。	
9	・実際に太鼓や笛の演奏の仕方や歌い方を教えてもらい、楽しさや大変さを交流する。	
10	・活動を通して感じたことや考えたことを付箋紙に書き、交流する。	

11	<p>【第2期】～調べる，表現する～</p> <p>◎ オリジナルの「木遣り」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木遣りの歌詞の意味，曲調を考える。 ・木遣りの歴史について，地域の人から聞いたり，参考資料で調べたりする。 ・時代背景，曲にする歌詞の意味を対比的に考える。 ・曲に合うように歌詞を具体的に考える。 ・活動を通して感じたことや考えたことを付箋紙に書き，交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後，感じたことや考えたこと等を付箋紙に書き，学級全体で整理・分析し，次の活動を見いだすようにする。 ・本時の活動の前に創立110周年記念の木遣りをつくる活動を行う。このことで，木遣りをつくるまでの学び方を体験できるようにする。
	<p>【11月25日の授業公開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に「ピラミッドチャート」を使って各グループが考えた，「木遣りに使いたい言葉」を共有する。 ・今回の「元気づける」木遣りには，何が大切なのかを考える。 ・木遣り保存会からのビデオレターをもとに，「自分たちをやる気にさせる」「思いをストレートにのせる」ということが大切（木遣り作りの視点）であることを学ぶ。 ・視点をもとに，言葉を組み合わせ，木遣りの歌詞を考え，なぜその言葉を選んだのかをグループでまとめる。 ・各グループの作成した木遣りの歌詞と，その歌詞にした理由（歌詞に込められた思い）を共有する。 ・木遣りづくりを振り返り，自分の大切にしたい思いは何か，なぜそう思ったのかを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会の状況を踏まえて，自分たちを元気づける木遣りをつくり，表現できるようにする。 ・木遣りづくりの視点となる「自分たちをやる気にさせる」「思いをストレートにのせる」をビデオレターの中から聞き取り，ポイントをまとめる。 ・学習を通して，自分が大切にしたいと考えた思いを記述で残せるように振り返る。
12	<p>【第3期】～見つめる～</p> <p>◎ 「なりたい自分」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでにつくった成果物を振り返り，「あこがれ」について考える。 ・「あこがれ」をもとにして，「なりたい自分」について考える。 ・「なりたい自分」について，一つにつき1枚のカードに書き表す。 ・そのカードを使って成果物をつくり，解説文を書く。 <p>1 【第4期】～思い描く～</p> <p>◎ 「これからの自分」との出会い～二分の一成人式～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を振り返り，「自分の成長」について考える。 ・「自分の成長」について，一つにつき1枚のカードの書き表し，成果物をつくり，解説文を書く。 <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい自分」についての成果物と関連付け，二分の一成人式で保護者やお世話になった地域の方々に伝えたいことを考え，まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに出会い，一緒に活動した方々の言動を振り返り，「あこがれ」について考える。 ・「あこがれ」と「なりたい自分」は必ずしも一致しないことがある。その分析は第4期で行う。 ・自分のよさは自分自身では分からないことが多い。これまでの活動の具体的な姿から友達と交流して見いだす場を設ける。 ・これまでの体験と自分の変容を関連付けて考え，表現するように働きかける。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・二分の一成人式で発表する。 ・年間の活動を振り返るとともに、これまでの成果物、保護者からの手紙を関連付け、5年生に向けての思いを作文にまとめる。 	
---	--	--

(6) 評価

- ・地域で夢や希望をもって活動している方々の思いや願いを知ろうとしている。(知識・技能)
- ・活動を通して自分を見つめ、目指す自分を見だそうとしている。(知識・技能)
- ・地域の祭りについて調べ、整理・分析しようとしている。(思考力・判断力・表現力等)
- ・地域や社会の状況を踏まえて、学級独自の木遣りをつくり、表現しようとしている。(思考力・判断力・表現力等)
- ・地域の方々に心を開き、これからの自分について前向きに考えようとしている。(主体的に学びに取り組む態度)

(7) 11月25日の授業公開(18時間目/全40時間)

① ねらい(令和2年11月25日 5校時)

コロナ禍における木遣りづくりについて、地域の方の助言を踏まえて取り組むことを通して、表したい思いを明確にするとともに、今後の活動の方向性を見いだすことができる。

② 構想と主な手立て

【手立て1】

木遣りの歌詞をつくる際、「自分たちをやる気にさせる」「思いをストレートにのせる」という木遣りの大切なポイントを意識して言葉を選べるように、木遣り保存会の方からのビデオレターから木遣りづくりに大切なことを考える場面を設定する。

子どもは前時に、木遣りについて「7・7・7・5」の音の言葉でつくること、「新型コロナウイルス感染症の影響下の中で少しでも前向きになるようにする。」というテーマであることをもとに、ピラミッドチャートを使って言葉を出し合った。本時では、その言葉を使って木遣りの歌詞をつくり上げていく。「音」と「テーマ」も大切であるが、「辛さをまぎらわせ、やる気を引き出すもの」「思いがストレートに表されたもの」という木遣りの本来の意味を意識して言葉を選ぶようにしたい。そのために、今までずっと活動に寄り添ってお世話になってきた木遣り保存会の方からのビデオメッセージを見る。木遣り作りの大切な部分をメッセージの中から考え、それを生かして活動に取り組めるようにする。

【手立て2】

木遣りの中に込めたい自分たちの思いを言葉で表現できるように、木遣りに使う言葉を選んだ理由をグループで話し合い、まとめる活動を行う。

今まで語り継がれてきた木遣りは、一つ一つ意味があり、思いが込められたものだった。自分たちのつくり上げた木遣りも同じように意味があり、思いがあることを感じながら今後のみんなで演奏し、歌う活動につなげたい。そこで、グループで話し合いながら、一つの木遣りをつくり上げる際、言葉を選んだ理由をまとめて記述することを通して、木遣りに込めたい自分たちの気持ちを表現できるようにする。また、授業の振り返りでは、個人での木遣りに込めたい思いを記述することで、自分自身の思いとも対話できるようにしたい。

【手立て3】

個としての学びを見直し、集団としての今後の方向性を見いだすために、木遣りに込めたい自分自身の思いと、みんなで作くりあげた木遣りをどう活用したいかを振り返りで記述する。

木遣りづくりの活動は、グループで行う。その活動を通して、友達の意見を聞き、個人としてどんな思いをもつようになったかを振り返るようにする。その際、振り返りで「木遣りに込めたい自分自身の思い」という視点を与えて記述するように働きかける。また、「つくりあげた木遣りをどう活用したいか」も問うことで、集団としての今後の方向性も振り返りの中から引き出し、次の活動へつなぐ。

③ 展開案

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価規準 ○留意点
1 テーマに沿って木遣りづくりを行うことを確認する。(5分)	T 1 木遣りづくりの第2弾を始めました。テーマは何でしたか？ C 1 コロナ禍の自分たちを元気づける木遣りだ。 T 2 この前の時間にみんなにピラミッドチャートで考えてもらった言葉をまとめました。 T 3 何に気を付けて木遣りをつくると良いのですか？ C 2 「7・7・7・5」でつくると良い。 C 3 この前は「お祝いの気持ち」だったけど、今回は「やる気が出る」かな？ T 4 そうでしたね。この前の「おめでたい木遣り」とは違っていますね。では、今日はそこを学習して木遣りを作りましょう。課題はどうなるかな？ C 4 何に気を付けて木遣りをつくると良いか？ C 5 頑張る木遣りは何に気を付けてつくると良い？	○テーマを確認する。 ○言葉をまとめたものを掲示する。 ○児童の言葉から課題を設定する。
<学習課題> コロナ禍の木遣りづくりは、何に気を付けると良いのだろうか		
2 ビデオレターを見て木遣りづくりに大切な視点を考える。(7分)	T 5 木遣り保存会の方にみんなが木遣り作りをしている話をしたら、Nさんがメッセージをくださいました。	○事前にビデオレターを撮影しておく。
4年生のみなさん。木遣りづくりを頑張ってくれているそうですね。私たち木遣り保存会はとてもうれしいです。みなさんが素晴らしいものをつくれるように、アドバイスを送ります。まず、木遣りは「辛さをまぎらわす、やる気が出るもの」でした。自分たちがやる気になる言葉を選んでくださいね。次に、大切なのが「自分がこうしたいという思いがストレートに伝わるもの」にすることです。みんなの気持ちが大切です。では、完成したら聞かせてくださいね。期待しています！		

	<p>T 6 すごく期待されていますね。どんなメッセージでしたか？</p> <p>C 6 辛さをまぎらわす、やる気の出るものにしてって言った。</p> <p>C 7 思いがストレートに伝わるものになると良いと話していたよ。</p> <p>T 7 具体的にどうすれば良いのかな？近くに人と話してみましよう。</p> <p>C 8 早く新型コロナが終わって、自由にいろいろできるようになってほしいって伝える言葉にしよう。</p> <p>C 9 きっとよくなるから頑張ろう！っていう木遣りにすると良いのかな。</p> <p>T 8 どんな話になりましたか？</p> <p>C 10 今は辛くても、いつか良くなるから頑張ろうという言葉にする。</p> <p>C 11 お祭りとかいろいろなことが早くできるようになってほしいという気持ちの言葉にする。</p> <p>T 9 メッセージやみんなの話から、どんなことに気を付けて木遣りをつくると良いのかまとめましよう。まとめはどうなるかな？</p> <p>C 12 やる気が出るような言葉を選んで書くと良い。と言ってたよ。</p> <p>C 13 ストレートに思いを伝えると良い、だね。</p>	
<p>3 木遣りづくりで気を付けることをまとめる。(3分)</p>	<p><まとめ></p> <p>木遣りの歌詞を作るときには、</p> <p>① 7・7・7・5の音で作る。</p> <p>② やる気が出る言葉を選ぶ。</p> <p>③ 自分たちの思いがストレートに伝わるようにする。</p> <p>というところに気を付けて作ると良い。</p>	<p>○児童の言葉をいかしながらまとめる。</p>
<p>4 言葉をグループで選びながら木遣りを作る。(15分)</p>	<p>T 10 では、今のまとめを生かしながら、木遣りづくりを進めていきましょう。ホワイトボードにまとめてください。なぜ、その言葉を選んだのかの理由も書いてください。</p> <p>C 14 「コロナ禍が終わり みんなが笑顔 あいがいっぱい 山の下」はどう？</p> <p>C 15 「早く終わってみんなで喜びたい」という気持ちがこもっていいかも。</p> <p>C 16 「今はがまん みんなではげまし つらいせいかつ のりきるぞ」だと良い？</p> <p>C 17 「みんなではげまし」を「みんなでがんばり」にするとどう？</p>	<p>○生活班ごとに、ピラミッドチャートで考えた言葉を使いながら木遣りを考える。</p> <p>○ホワイトボードを使って、グループでの考えをまとめていく。</p>

<p>5 できた木遣りとその言葉を選んだ理由をみんなで伝え合う。(10分)</p>	<p>T11 できた木遣りとその言葉を選んだ理由をみんなで伝え合ひましょう。</p> <p>C18 私たちは「コロナ禍が終わり みんなが笑顔 あいがいっぱい 山の下」にしました。みんなが頑張っって早くコロナ禍が終わり、笑顔になりたいという思ひを込めて言葉を選びました。</p> <p>C19 ぼくたちは「今はがまんだ みんなでがんばり つらい生活 のりきるぞ」にしました。力を合わせて乗り切ろうという気持ちを入めました。</p>	
<p>6 振り返りをワークシートに記入する。(5分)</p>	<p>T12 それぞれみんなの思ひの伝わる素晴らしい木遣りにすることができましたね。では、今日の振り返りを書きます。あなたが今日つくった木遣りに込めたかった思ひは何ですか。みんなでつくった木遣りを使ってどんなことをしてみたいですか。この2つを書いてください。</p> <p>C20 私は、みんなが幸せになっってほしいという思ひを込めたかったので「みんなが笑顔」という言葉を選びました。この木遣りを春の山の下祭りで歌ってみたいです。</p>	<p>■ 思ひのこもった言葉を選んで、木遣りをつくり、自分なりの意味を見いだすことができる。(ワークシートの記述)</p>

④ 本時の評価

ア 評価方法：ワークシートへの記述で評価する。

イ 評価規準：思ひのこもった言葉を選んで、木遣りをつくり、自分なりの意味を見いだすことができる。

ウ 判断規準：B評価→次の2点を満たす。

- ・自分の木遣りに込めたい思ひが分かる文章を、ワークシートに記述している。
- ・今後、木遣りを使って何をしたいかが分かる文章を、ワークシートに記述している。

【例】・私は、みんなが幸せになっってほしいという思ひを込めたかったので「みんなが笑顔」という言葉を選びました。この木遣りを春の山の下祭りで歌ってみたいです。

2 実践の成果と課題

(1) 成果

本事業の成果は、次の三点である。

一つは、地域の特徴を生かした単元開発ができたことである。

本活動「わっしょい!!」は、山の下地域に古くから伝わる木遣りを素材としている。その歴史や伝統文化としての意義、木遣り保存会の方々の長年に渡る取組、脈々と受け継がれてきた願ひを活動に取り入れて展開してきた。

コロナ禍の中、本活動の開始を7月とした。それまでの間、本活動の構想を見直した。

原案は担任が作成した。それをもとにして、地域教育コーディネーター、代表を含めた木遣り保存会の方々3名により、本活動のねらい、子どもに付けたい力、年間の流れ、必要物品、役割分担を話し合っった。このことにより、それぞれの立場で活動の方向性を共有することができた。以降、子どもの学びの状況による活動の修正、新たなアイデアの追加等が円滑に行われた。最初に骨太の方針を定めて、関係者で共有することの大切さを再確認する

ことができた。

活動が始まる前に、子どもに付けたい力を明確にして関係者で協議し、人的、物的、金銭的なリソースを確認した上で年間の単元を一緒に立ち上げることは、地域を舞台とした総合的な学習の時間の単元開発のポイントである。

二つは、子どもの特性を生かすカリキュラム・デザインができたことである。

この活動は、4期から成る。第1期は「ひたる」、第2期は「調べる、表現する」、第3期は「見つめる」、そして第4期は「思い描く」と名付けた。

第1期「ひたる」では、子どもが木遣りで使う太鼓、笛の演奏、歌に存分に没頭できるように時間を確保した。大太鼓は山の下中学校から4台借りた。笛は塩ビ管を使って自作した。その上で、木遣り保存会の方々に歌をつけて演奏を本格的に教えていただいた。この活動を繰り返すことで、子どもは自身や学級集団としての演奏技術の向上に合わせて、木遣り保存会の方々の思い、その歴史に興味をもった。ここから子どもの問いが生まれた。

第2期「調べる、表現する」では、子どもの問いから学習課題を設定した。木遣りの歴史、それを伝えてきた保存会の方々の思い、地域への願いに関する学習課題である。さらには、今年度が当校創立110周年目を祝う木遣りづくり、世界的にコロナ禍の中にあることから人々を元気づける木遣りづくりに関する学習課題を設定した。子どもは協働的に学習課題の解決を進め、思いや考えを書いたり伝えたり、木遣りとして演奏したりして表現した。

第3期「見つめる」では、本活動の中で出会った木遣り保存会の方々の思いや願いに触れ、「なりたい自分」について考える活動を行った。地域の伝統芸能を守り、後世に伝えるように活動している保存会の方々から子どもは大きな影響を受けた。中でも、山の下祭りの出店には人が集まるが木遣りへの関心は高くないこと、保存会は15名程の少人数で運営していること、高齢化が進んでいることに子どもは衝撃を受けた。この事実から、子どもは自分を見つめ、自分のよさを生かしてできることを考え始めた。

第4期「思い描く」では、本活動を二分の一成人式に向けた活動へと接続した。1年間を通して成長した自分についてできるようになったことを中心に保護者に紹介したり、将来に向けての夢や希望、決意を手紙に表して保護者に伝えたりした。こうした活動の冒頭、木遣り保存会の方々に自分たちがつくった木遣りを披露した。その際、自分のよさが発揮できるように太鼓、笛、歌を選択し、何度も試しながら表現した。当日は、子どもは保護者や木遣り保存会の方々にこれまでの活動を十分に認められ、大いに手応えを感じた。この活動を通して、3月、5年生に向けた自分を思い描き、作文に表し、共有して全活動を終えた。

子どもの特性を踏まえて活動を仕組み、問いから学習課題を設定し、追究が連続するように各期の目的を明確にして展開することは、カリキュラム・デザインのポイントである。

三つは、子どもの学びが連続するカリキュラム・マネジメントができたことである。

当校では、昨年度末から今年度初めにかけて、生活科・総合的な学習の時間を中核とした単元配列表（以下『年間カリキュラム表』）を整備した。その際、各教科等との関連については、生活科・総合的な学習の時間で育みたい力を踏まえて、年間の学習活動を見通しながら必要最小限になるようにした。それを年度初めの4月に新しい担任に引き継ぎ、当人の問題意識を加味して修正を図った。

令和元年3月から5月までの一斉休校、6月からの分散登校があったため、年間カリキュラム表を再度修正することになった。その際、改めて子どもに育みたい力、各教科等の内容、残っている授業日数を踏まえた重点化、順序性の視点から整理、関連付けを行った。

本活動「わっしょい!!」においても年間の活動を全面的に見直すことになった。構想当初は、校区内の保育園、老人施設との交流を活動に含んでいた。しかし、コロナ禍の中、こうした活動が困難であることから、木遣りを中心にした活動に焦点付けることにした。

木遣りの演奏に「ひたる」時期を7月下旬から10月上旬に設定した。この活動は、音楽の「ちいきに伝わる音楽に親しもう」の学習と関連付けた。また、活動後は直ちに「楽しかったこと・そうではなかったこと」を付箋紙に端的に書き出し、座標軸を使って整理・分析して思いを共有し、次時にやってみたいことや調べてみたいことを見いだす振り返りを行った。この活動については、国語の「クラスみんなで決めるには」の学習と関連付けた。

11月25日には、コロナ禍の中での木遣りづくりをテーマにして授業を公開した。その際、子ども自らが整理・分析の方法を使いこなすことができるように、本時の前に創立110周年目を祝う歌詞について、ピラミッドチャートを使って考える活動を位置付けた。子どもは、グループで各自が考えた言葉と理由を紹介し、ピラミッドチャートを使って精選した。その学習での経験が生かされるように本時を位置付けた。

今年度はコロナ禍におけるカリキュラム・マネジメントが求められた。その結果、各教科等の内容、重点化、順序性を再検討し、総合的な学習の時間との関連を見直す機会を得た。本活動においては、木遣りを体験した直後に整理・分析の場を設定し、子どもの実感を踏まえて次時の活動を設定した。さらには、整理・分析の方法を子ども自らが使うことができるように活動を構想した。

子どもが活動する姿や発言、成果物等から感じたことや考えたこと、手応えを理解し、次の活動を見いだすように働き掛けるとともに、学習内容や方法を関連付け、学びが連続するように評価・改善を図ることは、カリキュラム・マネジメントのポイントである。

(2) 課題

本事業の課題は、次の三点である。

一つは、地域を舞台とした総合的な学習の時間のさらなる単元開発の推進である。

総合的な学習の時間は、地域を舞台とした活動を構想すべきである。今の社会には、容易に解決を図ることが困難な課題が山積している。子どもが生活する地域も、その影響を大きく受けている。地域はその課題に対して、独自のよさを生かしながら解決を図ろうと取組を進めている。ここに単元開発の根本があると考えている。

今年度の取組を通して、当校は「わっしょい!!」を開発することができた。大変意義深いことではあるが、振り返ってみて、学級担任が地域に出て、地域の方々と話し、素材を集め、教材研究を進めていく時間の確保が困難であることを実感した。新潟市は、各校に地域教育コーディネーターが配置され、熱心に取組を進めている。しかし、年間の追究に耐え得る総合的な学習の時間を構想し、実践するには、学級担任に負うところが大きい。学級担任への支援を進める中で、総合的な学習の時間の単元開発の力をさらに高めていきたい。

そのためには、次の点が必要であると考えている。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・総合的な学習の時間で子どもから引き出し、高めたい力を明確にすること・夢や希望をもって活動している地域の人材、様々な取組を知ること・管理職を含めて地域の教育的な資源への感度を上げ、開拓し、校内で広めること |
|--|

二つは、カリキュラム・デザインの力のさらなる向上である。

総合的な学習の時間では、地域や現代社会の課題に合わせて、子どもの興味・関心を大切にして学習対象を設定する。このことは、子どもが好むように単元や活動を展開する構想や実践につながりやすいのではないだろうか。しかし、これだけでは学びが深まらない。「活動あって学びなし」「這い回る経験主義」と揶揄されないようにしたい。

学びを深める総合的な学習の時間を具現するには、子どもの発達特性を踏まえた学習対象、学習課題の設定、活動、追究の過程、表現方法の工夫が必要である。「わっしょい!!」では、活動性を重視した展開、木遣り保存会が抱える問題を知る時期の調整、それに伴う学習課題

の深化，気づきを自覚し共有する思考ツールを使った個と集団による表現を進めた。今回，活動全体を通して「木遣りの演奏」を基底とし，木遣り保存会の課題を知り，自分にできることを考え試みるとともに，未来の自分の姿を考え，伝えるようにカリキュラム・デザインを行った。それを事後的にキーワード化した様相が「ひたる」「調べる，表現する」「見つめる」「思い描く」である。本活動のカリキュラム・デザインの要をこのようにキーワード化することで，以後，他の活動や単元でカリキュラム・デザインを行う際の手がかりになるだろう。

今回の活動では，タブレット端末の配当が間に合わなかった。タブレット端末を活用した表現は，その速さ，量，共有のしやすさなどの点から子どもの学びを促進するだろう。今後，上記の展開の中に，タブレット端末を使用する目的を明確にして取り入れたい。

子どもの興味・関心という表層的な点に合わせて，発達特性の理解，それに基づく学び方等，深層的な面にまで着眼したカリキュラム・デザインの力をさらに高めていきたい。

そのためには，次の点が必要であると考ええる。

- ・目の前の子どもの実態を捉え，学びの過程を理解し，それに合った展開を構想し改善を図ること
- ・子どもが感じたことや考えたことを活動と関連付けて自然にアウトプットする表現方法を構想すること
- ・子どもがアウトプットを行う際には，目的を明確にしてタブレット端末の効果的な活用を図ること

三つは，カリキュラム・マネジメントの力のさらなる向上である。

当校では，生活科・総合的な学習の時間を中核とした単元配列表を年度末に作成し，新年度初めに新担任に引き継ぎ，修正を加えた後，直ちに実践を進めることができるようにしている。各教科等と生活科・総合的な学習の時間との関連を構想する際，学習内容，学習方法から必要最小限のリンクを意識するように進めてきた。リンクをたくさんつくってもよいのであるが，作りすぎるとそれを意識しきれなくなり，結局は何もできないまま終わってしまうことを危惧するからである。

今年度は，コロナ禍による一斉休校や分散登校を経験した。このことにより，学習内容の重点化や順序，時数の再設定が求められた。この点からも，カリキュラム・マネジメントを行うことになった。

こうしたことを踏まえて，カリキュラム・マネジメントの力をさらに高めていきたい。

そのためには，次の点が必要であると考ええる。

- ・学級担任による目指す子どもの姿，問題意識を明確にすること
- ・学習内容，学習方法から生活科・総合的な学習の時間と各教科等のリンクを構想すること
- ・リンクを構想する際は，目指す子どもの姿，問題意識を踏まえて必要最小限にすること

本事業を推進するに当たり，新潟市教育委員会学校支援課指導主事 佐藤貴子様，片山敏郎様，東区教育支援センター指導主事 杉中規彦様，新潟市立総合教育センター 所長補佐 青木博子様には多くのご指導をいただいた。

また総合的な学習の時間における単元開発，授業づくりにおいて，山の下木遣り保存会会長 宮永正倫様はじめ同会員の皆様には，年間を通して温かいご支援をいただいた。

関係者の皆様に，心より感謝申し上げます。